

Canon EF LENS

TS-E17mm f/4L

TS-E24mm f/3.5L II



JPN

使用説明書

キヤノン製品のお買い上げ誠にありがとうございます。

キヤノンTS-Eレンズは、EOSカメラ用アオリ（ティルト・シフト）機構搭載レンズです。アオリ機構は撮影範囲や被写界深度のコントロール、像変形の修正など、一般のレンズでは不可能な高度な撮影を可能にします。

- TS-Eレンズの機能を最大限に活用していただくため、次の条件での撮影をおすすめします。
 - ・ファインダー視野率100%のEOSカメラ（EOS-1・EOS-1D・EOS-1Dsシリーズ）と方眼レーザーマットのフォーカシングスクリーンEc-Dの併用
 - ・ライブビューの使用
 - ・三脚の使用
- ストロボ内蔵タイプのEOSカメラでは、シフト機能またはレボルビング機能の一部に制約が生じる場合があります。

特長

1. 非球面レンズとUDレンズを採用することにより、極めて優れた描写性能を実現しています。
2. SWC（Subwavelength Structure Coating）を採用することにより、特に入射角の大きな光が原因となるフレアやゴーストの発生を大幅に低減しています。
3. TS-E17mm F4Lは、 $\pm 6.5^\circ$ までのティルトと $\pm 12\text{mm}$ までのシフト、TS-E24mm F3.5L IIIは、 $\pm 8.5^\circ$ までのティルトと $\pm 12\text{mm}$ までのシフトが可能です。
4. ティルト・シフト機能を単独または組み合わせて使用できます。またTSレボルビング機能により、ティルトとシフトを直交から同方向まで変えることができます。
5. レンズを回転させてティルト・シフトの方向を変えることができます。
6. 円形絞りの採用により、なめらかで美しいボケ味が得られます。

⚠ 安全上のご注意

- レンズ、またはレンズを付けた一眼レフカメラで、太陽や強い光源を直接見ないようにしてください。視力障害の原因となります。特に、レンズ単体で直接太陽をのぞかないでください。失明の原因となります。
- レンズ、またはレンズを付けた一眼レフカメラを日光の下にレンズキャップを付けないまま放置しないでください。太陽の光が焦点を結び、火災の原因となることがあります。
- レンズを着脱するときは、かならずティルト・シフト目盛を「0」の位置にしてください。指をはさんだり、カメラを傷つける恐れがあります。
- ティルトまたはシフト操作時に、ティルトまたはシフト機構の一部に鋭利な部分が露出しますので、触れないように注意してください。
- シフト操作をしながらレボルビング操作をしないでください。指をはさんでけがをする恐れがあります。

取り扱い上のご注意

- レンズを寒いところから暖かいところに移すと、レンズの外部や内部に水滴が付着（結露）することがあります。そのようなときは、事前にレンズをビニール袋に入れて、周囲の温度になじませてから、取り出してください。また、暖かいところから寒いところに移すときも、同様にしてください。
- 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。レンズの故障の原因になることがありますので、このような場所にレンズを放置しないでください。

有害光線の対策について

TS-E17mm F4Lは画角が広く、レンズが前枠部より飛び出しているため、有害光線の影響を受けることがあります。フレアやゴーストを防ぐため、板などで、レンズに入射する有害光線をカットすることをおすすめします。

またTS-E24mm F3.5L IIでも、フードの使用とともに、TS-E17mm F4Lと同様の有害光線のカットをおすすめします。

本文中のマークについて

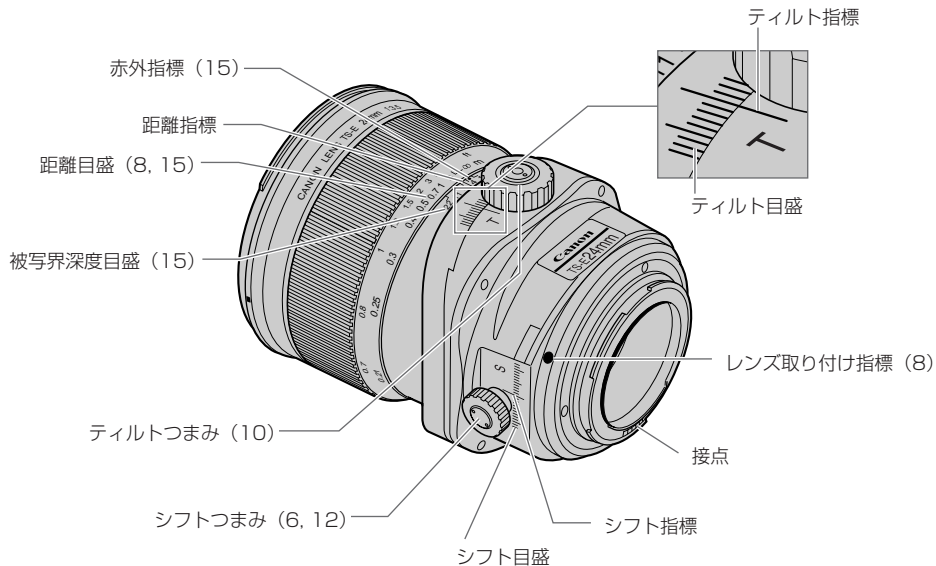


撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項などが書かれています。



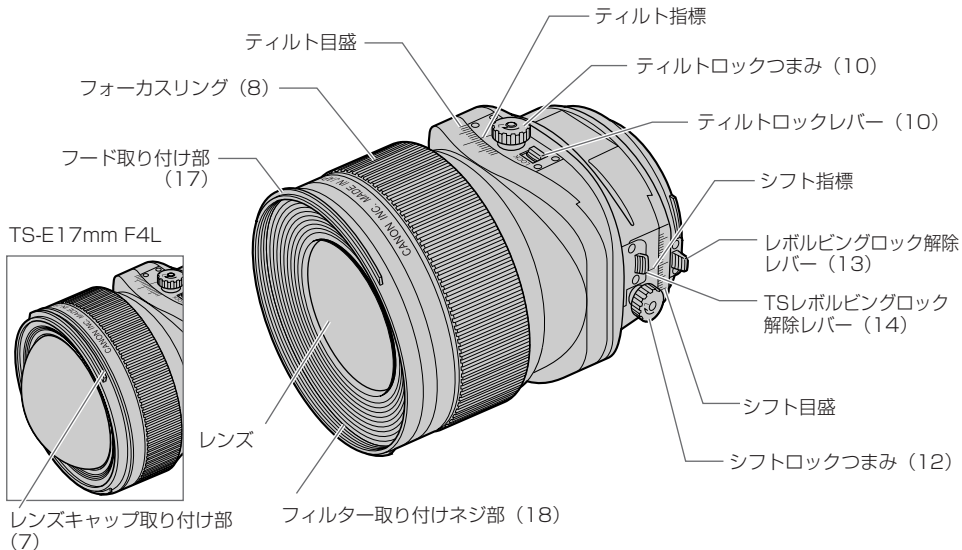
基本操作に加えて知っていただきたい事項が書かれています。

各部の名称



(**) の**部は参照ページを示しています。

各部の名称

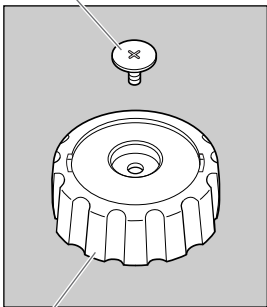


(**) の**部は参照ページを示しています。

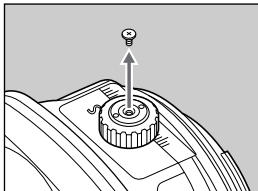
シフトつまみ用キャップについて

シフトつまみ（P4）に付属のキャップを装着すると、シフト操作がしやすくなります。ただし、ストロボ内蔵タイプのEOSカメラでは、レンズの着脱時、シフト操作時およびレボルビング操作時にキャップが接触します。キャップはEOS-1・EOS-1D・EOS-1DsおよびEOS 5Dシリーズでの使用をおすすめします。

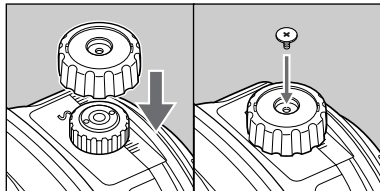
取り付けネジ（ネジ長さ3mm）




シフトつまみ用キャップ




1 シフトつまみのネジを外します。



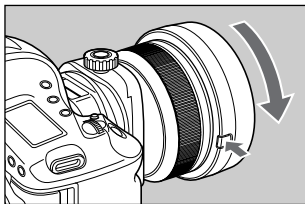
2 つまみにキャップを押し込んで取り付け、付属のネジで固定します。キャップを取り外すときは、ネジを外し、キャップを引き上げてください。

 あらかじめシフトつまみに取り付けられているネジ（ネジ長さ2.2mm）では、キャップの固定ができません。かならず付属のネジを使用してください。

 ネジの取り外し、取り付けには精密ドライバー（プラス）を使用してください。

レンズキャップの着脱 (TS-E17mm F4L)

TS-E17mm F4Lはレンズが前枠部より飛び出しています。レンズを保護するため、撮影時以外は専用のレンズキャップを装着してください。

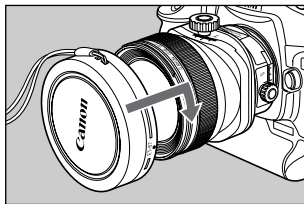


● 取り外し

キャップの側面にあるボタンを押しながら、キャップの取り付け位置マークとレンズの赤指標が合うまで、キャップを矢印の方向に回して取り外してください。



取り外したレンズキャップは、付属のストラップを使用して、三脚などにかけておくことができます。



● 取り付け

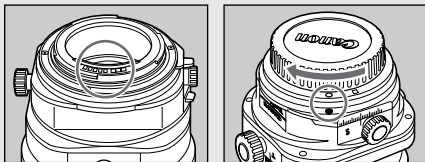
キャップの赤い取り付け位置マークとレンズ先端の赤指標をあわせ、レンズの赤指標とキャップの停止位置マークが合うまで、キャップを矢印の方向に回して確実に取り付けてください。



レンズキャップを取り付けた状態では、ストラップを持ってレンズを持ち上げないでください。レンズが落下して破損する恐れがあります。

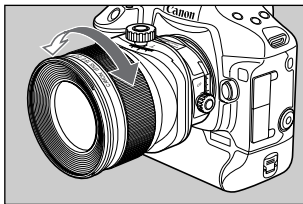
1. レンズの着脱

レンズの着脱方法については、カメラの使用説明書を参照してください。



- レンズを着脱するときは、かならずティルト・シフト目盛を「0」の位置にしてください。
- レンズを外したときは、接点やレンズ面を傷つけないように接点を上にして置いてください。
- 接点に汚れ、傷、指紋などが付くと、接触不良や腐食の原因となることがあり、カメラやレンズが正確に作動しないことがあります。
- 汚れや指紋などが付着した場合は、柔らかい布で接点を清掃してください。
- レンズを外したときは、ダストキャップを付けてください。取り付けは、レンズ取り付け指標とダストキャップの○の指標をあわせて時計方向に回します。取り外しは、逆の手順で行います。

2. ピントの合わせ方



TS-Eレンズは、フォーカスリングを回してピントを合わせます（AF撮影はできません）。



- ティルト・シフト操作後は、再度ピント調整を行ってください。
- 距離目盛は、ティルト目盛が「0」の位置の状態でのみ有効です。



ライブビュー撮影可能なカメラの場合は、液晶モニターの拡大画像を使用したピント合わせをおすすめします。

3. ティルト機能について

ティルトでは、撮像面に対してレンズを傾けます。ティルト目盛が「0」の位置の状態では、ピント面は撮像面と平行です。これに対しティルト操作を行うと、ピント面は撮像面から角度を持った状態になります。

● 作例1

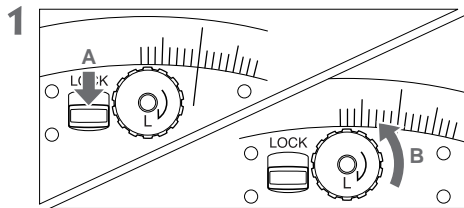


● 作例2

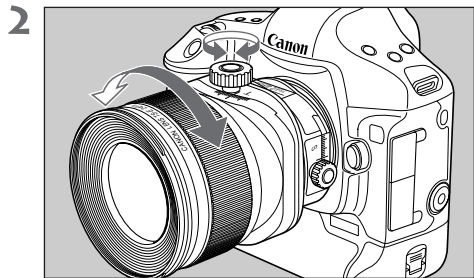


奥行きのある被写体全体にピントを合わせたい場合、通常の撮影では絞り込みで被写界深度を深くする必要がありますが、ティルト操作を行うと、被写界深度が足りない状況でも被写体を被写界深度内に収めることができます(作例1)。また逆方向にティルト操作を行うと、被写体の特定の部分だけにピントを合わせることができます(作例2)。

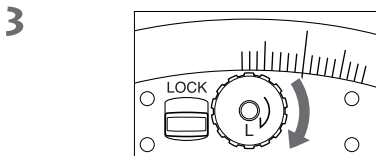
ティルト操作



ティルトロックレバーを矢印Aの方向にスライドします。ティルトロックつまみを矢印Bの方向に回してゆるめます。



ティルトつまみを回してティルト量を調整します。フォーカスリングを回してピントを調整します。



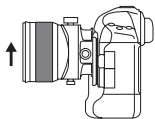
ティルトロックつまみを矢印の方向に回して、ティルト量を固定して撮影します。

ティルト目盛を「0」の位置の状態で固定するときは、ティルトロックレバーを『LOCK』の方向にスライドして、ティルトロックつまみを手順3の矢印の方向に回します。

! ティルト操作時に、ティルト機構の一部に鋭利な部分が露出しますので、触れないように注意してください。

4. シフト機能について

シフトでは、レンズの光軸を撮像面の中心から平行に移動します。
シフトは次のような状況で効果を発揮します。

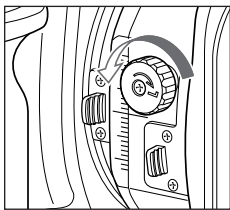


- 通常のレンズで建物などを撮影した場合、建物の上部がすばみますが、カメラを建物と平行にしてシフト操作を行うと、建物のすばまりを修正できます。

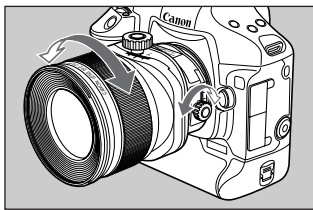


- 表面に反射のある被写体を撮影する場合、被写体に写り込まない位置にカメラを移動してからシフト操作を行うと、構図を変えずにカメラの写り込みを防ぐことができます。

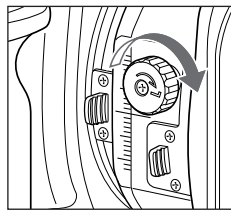
シフト操作



1 シフトロックつまみを矢印の方向に回してゆるめます。



2 シフトつまみを回してシフト量を調整します。フォーカスリングを回してピントを調整します。



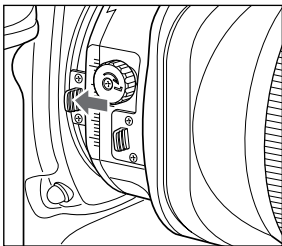
3 シフトロックつまみを矢印の方向に回して、シフト量を固定して撮影します。

! シフト操作時に、シフト機構の一部に鋭利な部分が露出しますので、触れないように注意してください。ストロボ内蔵タイプのEOSカメラでは、シフト操作時に、レンズが接触する場合があります。



- シフト量が多いと、周辺光量の状態が画面の上下・左右で異なってしまいますので、絞り込んで撮影することをおすすめします。
- シフトつまみに付属のキャップを装着して、シフト操作をやすくすることができます。(P6)

5. レボルビング



レボルビング機能によりティルト・シフト機構部を回転させてティルト・シフトの方向を変えることができます。
レンズをカメラに装着した状態で、レボルビングロック解除レバーをマウント方向に押し、ティルト・シフト機構部を回します。

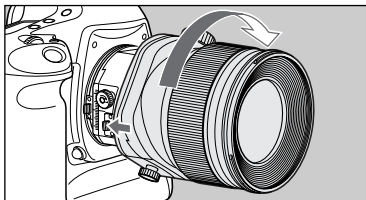
- レボルビングの範囲は $\pm 90^\circ$ です。なお 30° ごとにクリックがあり、 90° の位置で固定されます。
- !**
- レボルビング時はティルト・シフト目盛を「0」の位置にしてください。
 - レボルビングロック解除レバーを押したままティルト・シフト機構部を急に回転すると、シフトロックつまみが指に当たる場合がありますのでご注意ください。
 - シフト操作をしながらレボルビング操作をしないでください。指をはさんでけがをする恐れがあります。
 - ストロボ内蔵タイプのEOSカメラでは、レボルビング操作時に、レンズが接触する場合があります。



撮影中の位置ずれを防ぐため、レボルビングがロックされた状態、またはクリック位置での撮影をおすすめします。

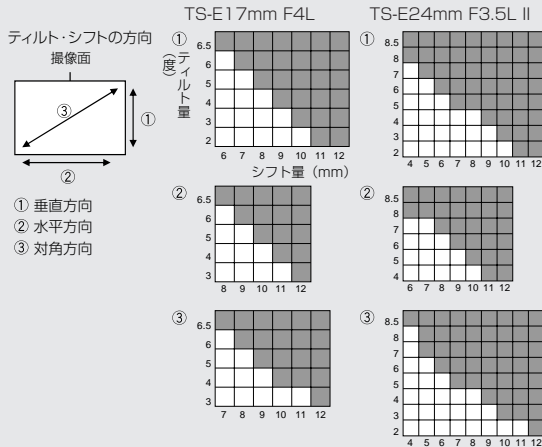
ティルトとシフトの作動方向の変更 (TSレボルビング機能)

TSレボルビング機能により、ティルトとシフトの作動方向を、直交から同方向まで変えることができます。レンズをカメラに装着した状態で、TSレボルビングロック解除レバーをマウント方向に押し、ティルト機構部を回します。



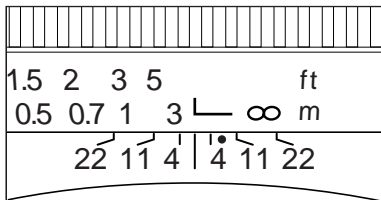
- 45° の位置にクリックがあり、直交または同方向の状態で固定されます。

❗ ティルトとシフトを同方向で使用する場合は、次の表のグレーの範囲でケラレが生じます。



📷 撮影中の位置ずれを防ぐため、TSレボルビングがロックされた状態、またはクリック位置での撮影をおすすめします。

6. 被写界深度目盛 (TS-E24mm F3.5L II)

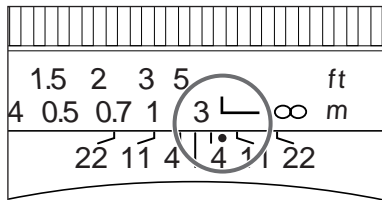


ピントを合わせた被写体の前後で鮮明に写る一定の範囲を被写界深度といいます。被写界深度の範囲は距離目盛下部の被写界深度目盛ではさまれた範囲となります。



- 被写界深度目盛は、ティルト目盛が「0」の位置の状態でのみ有効です。
- 被写界深度目盛はあくまでも目安です。

7. 赤外指標 (TS-E24mm F3.5L II)



赤外指標は、白黒赤外フィルム使用時のピントを補正するためのマークです。MFでのピント調整後に、距離目盛を赤外指標の位置までずらし撮影します。



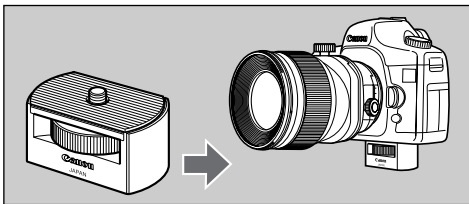
- 赤外フィルムが使用できないEOSカメラがあります。お手持ちのEOSカメラの使用説明書で確認してください。



- 赤外指標は800nmの波長が基準になっています。
- 赤外フィルムに記載されている注意事項も必ずお読みください。
- 赤フィルターを使用してください。

8. TS-E用三脚アダプター(別売)

カメラの機種によっては、カメラを直接三脚に取り付けるとティルト・シフト・レボルビング機能が使用できない場合があります。その場合はカメラの三脚ねじ穴に別売のTS-E用三脚アダプターを取り付けてからカメラを三脚に取り付けてください。

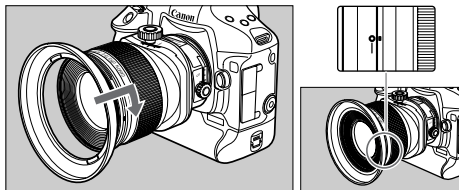


9. 露出について

ティルト・シフト目盛が「0」の位置の状態では、AE（自動露出）撮影ができます。ティルト・シフトされた状態でのAE撮影は、露出誤差が生じる場合がありますので、おすすめできません。ティルト・シフト目盛が「0」の位置の状態での露出値を目安に、できるだけ露出を変えて撮影しておくことをおすすめします。

10. フード (TS-E24mm F3.5L II)

レンズフード (EW-88B) は、有害光線をカットするとともに、雨・雪・ほこりなどからレンズ前面を保護します。



フードの赤い取り付け位置マークとレンズ先端の赤指標をあわせ、レンズの赤指標とフードの停止位置マークが合うまで、フードを矢印の方向に回して確実に取り付けてください。

収納時にはフードをレンズに逆向きにかぶせることができます。

! フードの取り付けや取り外しをするときは、フードの根元を持って回してください。フードの先の方を持つと変形して回らなくなることがあります。

- !**
- フードの使用とともに、板などで、レンズに入射する有害光線をカットすることをおすすめします。
 - TS-E17mm F4Lのフードはありません。

11. フィルター（別売） （TS-E24mm F3.5L II）

フィルターは、レンズ先端のフィルター取り付けネジ部に取り付けてください。

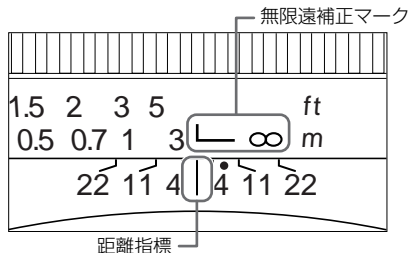


- フィルターは1枚のみ使用できます。
- 偏光フィルターはキヤノン円偏光フィルター（82mm）を使用してください。



TS-E17mm F4Lはフィルターが使用できません。

12. 無限遠補正マーク （TS-E24mm F3.5L II）



温度変化によるピント移動を補正するため、無限遠（∞）位置に余裕を持たせてあります。常温の無限遠位置は、Lマークの縦線と距離指標が合うところです。



無限遠の被写体に正確にピントを合わせる場合は、ファインダーまたは液晶モニターの拡大画像*で確認しながらフォーカスリングを回してください。

*ライブビュー撮影可能なカメラの場合

13. エクステンションチューブ (別売)

TS-E24mm F3.5L IIIは、エクステンションチューブEF12 IIを使用して拡大撮影ができます。撮影距離範囲と撮影倍率は次のようになります。

	撮影距離範囲 (mm)		撮影倍率 (倍)	
	近距離側	遠距離側	近距離側	遠距離側
EF12 II	182	198	0.85	0.51



- TS-E17mm F4Lは、エクステンションチューブEF12 II/EF25 IIの使用はできません。
- TS-E24mm F3.5L IIIは、エクステンションチューブEF25 IIの装着は可能ですが、レンズ先端から被写体までの距離が極端に近くなるため、使用はおすすめできません。

主な仕様

		TS-E17mm F4L	TS-E24mm F3.5L II
焦点距離・明るさ		17mm F4	24mm F3.5
レンズ構成		12群18枚	11群16枚
最小絞り		F22	F22
画角（通常）	対角	104°	84°
	垂直	70° 30′	53°
	水平	93°	74°
最短撮影距離		0.25m	0.21m
最大撮影倍率		0.14倍	0.34倍
画界		168×251mm	72×107mm
ティルト量		±6.5°	±8.5°
シフト量		±12mm	
ティルト目盛表示		1° 毎	
シフト目盛表示		1mm毎	
レボルビング機構		-90°、0°、+90° の位置でロック、30° ごとにクリックあり	
TSレボルビング機構		直交、同方向の位置でロック、45° にクリックあり	

主な仕様

	TS-E17mm F4L	TS-E24mm F3.5L II
フィルター径	—	82mm
最大径×長さ	88.9×106.7mm	88.5×106.9mm
質量	820g	780g
フード	—	EW-88B
レンズキャップ	レンズキャップ17	E-82/E-82 II
ケース	LP1219	LP1319

- レンズの長さはマウント面からレンズ先端までの寸法です。キャップおよびダストキャップをつけたときの長さはTS-E17mm F4Lでは表示寸法+26mmになります。TS-E24mm F3.5L IIでは、表示寸法+21.5mm（レンズキャップがE-82の場合） / +24mm（レンズキャップがE-82 IIの場合）になります。
- 大きさ・質量は本体のみの値です。
- エクステンダーEF1.4× II/EF2× II、クローズアップレンズ250D/500DおよびゼラチンフィルターホルダーIII/IVの使用はできません。
- 絞り値はカメラ側で設定します。
- 記載データはすべて当社基準によります。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

アフターサービスについて

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりはお客様にてご負担願います。
2. 本製品のアフターサービス期間は、製品製造打切り後7年間です。なお、弊社の判断によりアフターサービスとして同一機種または同程度の仕様製品への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、ご使用の消耗品や付属品をご使用いただけないことがあります。
3. 修理品をご送付の場合は、撮影された画像を添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

キヤノンEFレンズホームページ
canon.jp/ef

キヤノンお客様相談センター
050-555-90002 (直通)

受付時間〈平日〉9:00~20:00〈土/日/祝〉10:00~17:00〈1/1~3は休ませていただきます。〉

- ※ 海外からご利用の方、または050からはじまるIP電話番号をご利用いただけない方は03-3455-9353をご利用ください。
- ※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

Canon